

令和 6 (2024) 年度

「運営に関する計画（最終評価）」

大阪市立南津守小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立南津守小学校 令和 6 年度 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標は、「学ぶ意欲を持ち、自他を大切にする子どもを育てる」であり、学ぶことの楽しさを感じさせ、思いやりの心をもった児童の育成に取り組んでいく。

令和 5 年度の大阪市小学校学力経年調査、全国学力・学習状況調査の結果などから見てくる本校児童の学力状況は、大阪市・全国の平均より下回っている。3-6 年生の標準化得点は 83%~100% であり、平均では 90% となっている。体力テストの結果においては、令和 5 年度 5 年生男子の体力合計点は大阪市・全国平均と共に超えており、女子は全国平均には及ばないものの大阪市の平均は越えている。また、不登校児童が多く、令和 5 年度の不登校児童の割合は 4.4%、新たに不登校になった児童の割合は 2.8% である。さらに、不登校児童を含む長欠児童が 17.9% は増加傾向にある。

このような現状の中、課題改善に向けて児童に達成感や成就感を味わわせる指導を重視していく。学習面では学んだ知識を活用して「できた」という達成感を得やすい算数科の学習を校内研究の軸とし、児童一人一人が「やった」「できた」と思える経験を増やしていきたい。不登校傾向が見られる児童の多くに学力面での躊躇が見受けられことからも、学習面での粘り強いサポートが不登校対策につながると考える。

生活面においては、「あいさつができた」「人に優しくできた」などを振り返る場面を多く設け、できたことを自分自身で確認する機会を増やし、校内調査項目「自分にはよいところがあると思う」で肯定的な回答をする児童の割合を高めていきたい。

確かな学力の定着と自尊心の向上を基盤とし、「知・徳・体」をバランスよく、全教職員が一丸となって教育活動を展開していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、9割以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査における「人の役に立ちたいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、9割以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査、校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、令和3年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における標準化得点を令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を大阪市の平均値以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査、校内調査から「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査における「タブレットパソコンを使うことで、勉強がわかりやすくなりますか」の項目において、肯定的な回答割合を令和4年度1回目と比較し10%向上させる。
- 令和7年度の超過勤務時間平均を令和4年度（31時間30分）より減らす。
- 令和7年度末の校内調査における「授業で南津守地域のことを調べたり、考えたりすることができますか」の項目において、令和4年度の2回目と比較し、肯定的な回答割合を同等以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の学習に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く）
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 81%以上にする。【達成】(R5→R6 79.8%→82.5%)

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【達成】 前年度不登校児童の50%で改善がみられた

一方で在籍率 R5→R6 4.8%→5.9%

・年度末の校内調査「自分のクラスは、安心できる場所ですか」の項目について、肯定的な回答を 82%以上にする。【達成】(R5→R6 80.2%→86.5%)

・年度末の校内調査「困ったときに、相談できる友だちはいますか」「困ったときに相談できる教職員はいますか」の項目について肯定的な回答をそれぞれ 92%、86%以上にする。【達成】(R6 末 それぞれ 92.9%、88.8%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、算数の学習に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。

【未達成】

「大阪市平均の 80%未満」を算数に課題の見られる対象児童(人数)をとした場合

現 4 年 4 人増加 現 5 年 7 人減少 現 6 年 2 人減少

学校全体では (R5→R6 35.0%→33.5%)

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69%以上にする。【達成】(R5→R6 68.1%→70.4%)

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を 69%以上にする。【達成】(R5→R6 68.1%→70.6%)

・年度末の校内調査「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 73%以上にする。【未達成】(R6 末 71.2%)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 52% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く)

【未達成】(R6 活用平均 4-8 月 60.8% 9-1 月 66.1%) (年度目標達成率 R6 1 月末 2.1%)

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 94%以上にする。

【達成(予定)】 (R6 2 月末 85.3% 3 月末 100% 予定)

・スクールライフノートやデジタルドリルを活用する児童を、毎日 50%以上にする。

【達成】(R6 末 94.3%)

・学校閉学日を年間 5 日以上設定する。 【達成】

(様式 2)

大阪市立南津守小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 81% 以上にする。 (R5→R6 79.8%→82.5%) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 前年度不登校児童の50%で改善がみられた 一方で在籍率R5→R6 4.8%→5.9% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童が安心して過ごせる教育環境の整備、児童の集団づくりを行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査「自分のクラスは、安心できる場所ですか」の項目について、肯定的な回答を 82% 以上にする。 (R5→R6 80.2%→86.5%)</p>	
<p>取組内容② 【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>校内の人とのかかわりを大切にし、触れ合いの中で助け、助けられるという関係性を身につける。</p>	B
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査「困ったときに、相談できる友だちはいますか」「困ったときに相談できる教職員はいますか」の項目について肯定的な回答をそれぞれ 92%、86% 以上にする。 (R6 末 それぞれ 92.9%、88.8%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考える児童が増えた。 →様々な場面において、いじめをなくすための実践に取り組んできた。小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合は82.5%(肯定的回答は95.2%)であり、目標を達成できた。</p>
<p>○児童は、困ったときに助け合える仲間に育ってきている。 →学習場面でグループ活動を多く取り入れたり、休み時間に孤立することがないように間に入って関係性を作っていくなど、学校生活のさまざまな場面で仲間づくりの取組を実践してきた。また、学級の良い雰囲気づくりに向けて、「いいところ見つけ」や、ふわふわ言葉(ちくちく言葉)の実践、全体でのがんばりをほめる取り組み、気になればすぐに声をかける等の実践は児童の感想からも効果があった。年度末の校内調査「自分のクラスは、安心できる場所ですか」に対して肯定的に回答する児童の割合は 86.5% であり、目標を達成できた。</p>

→望ましい人間関係を構築できるようなさまざまな配慮や取り組みを続けてきた。まちがった行動や人を傷つける言葉遣いは、よくない理由だけでなく、望ましい解決方法を伝えながら指導を続けている。その結果、自他にあやまちがあったときに、うそをついてごまかしたり、失敗を追及したりするのではなく、素直に認めたり許したりできるように育ってきている。
→トラブルなどの出来事はすぐに学年で共有したり、複数で対応したりすることができた。繰り返し指導がいる児童に対しても、感情的にならずねばり強い取り組みを続けている。

○年度末の校内調査「困ったときに、相談できる友だちはいますか」「困ったときに相談できる教職員はいますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合はそれぞれ 92.9%、88.8%であり、目標を達成できた。

→複数の教職員から声かけがあることで、情緒が安定したり、できなかつたことができるようになつたりしている児童が多い。先生に相談したら話を聴いてくれる、相手と話してくれるという雰囲気が醸成できつつある。

→高学年では、友人関係が固定化したり、過剰な仲間意識を示したりして、友達と気兼ねなく自由に交流できていない様子が感じられる場面もみられる。

○前年度不登校児童の改善はできたが、新規不登校児童が増加した。一進一退の状況が続いている。

→SSWや登校支援センターと連携、担任などの働きかけによって前年度不登校児童の半数に改善がみられた。また、不登校状態から COCO ルームへの登校ができつつある子どももいる。家庭の課題が大きい児童については関係機関に要請し、個別ケース会議を実施し、状況改善に取り組めた。一方で新規児童が増え、課題は解消に向け取組の継続が必要である。

次年度への改善点

○いじめをしない・許さない気持ちを高めるための取組を継続する。

→学校生活のさまざまな場面を通じ、今後もいじめをなくすための取組を継続する。

→人権教育の継続的な実践や道徳授業の充実などに取り組み、児童の自己肯定感を高めるとともに、他者への理解や、意見が異なる人に対しても認め合う態度を育てていく。

○トラブルの早期発見と解決に向けた取組を継続する。

→「心の天気」のより積極的な活用を図る。

→教職員間の情報共有をより密にする体制づくりを推進する。また、日頃からより多くの教職員が児童との関係を作つておくことで、困ったときの相談窓口となれるようとする。

→学校、家庭間の連携を深められるよう、今後も保護者・家庭との関係づくりに努める。

○不登校児童を増やさないための取組を深める。

→連絡なしで欠席している児童・家庭に対する組織的な連絡体制を構築する。また、不登校傾向が強い児童・家庭には、個々のケースごとに効果的な連携がとれるように進める。

→友人間のトラブルや漠然とした不安などによる欠席を長期化させないよう、ていねいな対応を継続していく。また、登校支援センター、スクールカウンセラー、SSW、COCO ルームの活用、関係諸機関との連携などを強化して改善に向けて取り組む。

○暴言や暴力に対する組織としての対応の確認と検討を継続する。

→トラブルや暴言などがあった際、複数の教職員で同じ指針で対応し続ける体制づくりを推進する。また、保護者・家庭と連携しながら解決に向け取り組み続けていく。

→問題行動の指導方針の連携が叶いにくい保護者・家庭に対するアプローチについては、今後も関係諸機関などと連携を深めながら、その対応について協議を進めていく必要がある。

(様式 2)

大阪市立南津守小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、算数の学習に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 「大阪市平均の 80%未満」を算数に課題の見られる児童(人数)をとした場合 現 4 年 4 人増加 現 5 年 7 人減少 現 6 年 2 人減少 学校全体では (R5→R6 35.0%→33.5%) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69% 以上にする。(R5→R6 68.1%→70.2%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>子ども同士の話し合いの時間を活用した授業を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を 69% 以上にする。</p> <p>(R5→R6 68.1%→70.6%)</p>	B
<p>取組内容② 【健やかな体の育成】</p> <p>年間を通して、体育科の授業の充実や学級での外遊びの啓発を行う。時期に合わせて、体力向上に向けた取組を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 73% 以上にする。</p> <p>(R5→R6 72.3%→71.2%)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】

- 話し合いの場を設定したり、学習者用端末を活用したりして、話し合う・意見を交流することを抵抗なく行える児童が増えてきた。
- どんな意見でも認め合える学級の雰囲気作りによって、話し合い活動を活発にできた。
- 意見を伝える、相手の意見を受け入れることが身につきつつある。
- 話し合いの活動は行っているが、「深める」「広げる」には至っていない。
→様々な実践において交流場面を設定できた。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合は 70.6%であり、目標を達成できた。

取組内容②【健やかな体の育成】

- 年度当初より、体育科の授業改善(年間計画の見直しや新体力テストの結果分析)や工夫(待機時間の減少や運動量の増加、声掛け)に取り組み、授業の充実を図ることができた。
- 学級での外遊びの啓発にも取り組み、意図的に運動する機会を設けることができた。
→年度末の校内調査において「運動やスポーツをすることが好きですか」の質問に対し、最も肯定的な「好き」と回答した児童は 71.2%であり、目標の 73%には届かなかった。しかし、「好き」および「やや好き」と回答する肯定的な回答は 88.1%に達し、多くの児童が運動やスポーツに親しみを持つことができている。

次年度への改善点

取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】

- 話し合いの内容、「深める」「広げる」活動を充実させていく。
→算数科の見通しなど答えが決まっている話し合いだけでなく、生活・総合的な学習の時間などでの多様な考えが出るような場面での話し合い活動に取り組んでいく。
- 探究的な活動場面を積極的に増やしていく。
- 各教科の年間指導計画の中で重点的に取り組めそうな単元を決めて指導していく。
- 話し合い活動後の、学びの自己評価をつけるなど、話し合い活動を充実させる手立ての工夫を深化させていく。

取組内容②【健やかな体の育成】

- 児童が運動に親しみを持ち、より主体的に取り組める環境をさらに充実させていくことを通して、児童が運動をより身近に感じ、自発的に楽しめるような学校環境を充実させる。
→竹馬や一輪車の利用回数を増やすために、保管場所の再考を含め、学級活動や休み時間における活用を促していく。児童が楽しみながら挑戦できる機会を増やす工夫を続ける。
- これまで取り組んできた外遊びの啓発や、運動の楽しさを実感できるように声かけや働きかけを継続する。
- 運動の魅力を伝えるために動画の活用を進め、具体的な動きや楽しさが伝わるような工夫を行う。
- ボルダリングの積極的な開放を図り、児童が自由に体験できる環境を整えることで、多様な運動の選択肢を広げていく。

(様式 2)

大阪市立南津守小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>・授業日において、児童の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 52% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く)</p> <p>(R6 活用平均 4-8 月 60.8% 9-1 月 66.1%)</p> <p>(年度目標達成率 R6 1 月末 2.1%)</p> <p>・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 94% 以上にする。</p> <p>(R7 2 月末 85.3% 3 月末 100% 予定)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>児童が、学校生活全般において学習用端末を使うことで端末を活用する習慣をつける。</p>	
<p>指標</p> <p>スクールライフノートやデジタルドリルを活用する児童を、毎日 50% 以上にする。</p> <p>(R6 末 94.3%)</p>	B
<p>取組内容② 【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議や行事の精選を行い、教員の超時間勤務を軽減する。</p>	
<p>指標</p> <p>学校閉庁日を年間 5 日以上設定する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ○Google クラスルームを利用して、授業の情報をクラス間で共有したり、他者参照したりすることで学習意欲の向上につなげることができた。また、意見交流や思考整理をするツールとして活用も進んできている。 ○発表ノートを利用したり、撮影機能を活用したりしながら授業に取り組めた。低学年からの活用によりICT活用スキルも高まっている。 ○すべての学年において、さまざまな教科・活動で学習者用端末を活用する場面が増えた。委員会活動や係活動での利用など、活用の幅が広がってきている。 ○「心の天気」の入力は習慣化できつつあるが、目標達成には至らなかった。 →登校後のルーティンの確立や連絡帳を書く際のクラスルームの活用、委員会の呼びかけは効果があった。 →遅刻・欠席が多く、入力習慣が定着しづらい児童も多い。
取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○指標となる学校閉庁日の設定はできている。また、会議・行事の精選も進んでいる。 →勤務時間内における授業の準備や教材研究の時間確保は難しい現状がある。 →タイムマネジメントの意識は持てている。しかし、日常の業務量が多く、退勤時間が遅くなっていることが多い。
次年度への改善点
取組内容①【教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ○「心の天気」の入力の習慣化 →記入内容をこまめに確認して児童に声をかけるなど、記入する利点が分かるようにする。 →遅刻児童やその保護者に対し、生活習慣を整える働きかけを今後も続けていく。また下校までに「心の天気」の入力をすませる個別の声かけを行い、習慣化を図る。 ○児童のICT活用スキルの向上を図る。 →教育活動での活用場面を増やす。 →学年別ICT活用スキル一覧表の整備と更新を図る。 →児童が身につけた能力を進級後も活用できるよう、似た機能があるソフトウェアやアプリケーションは、校内での活用においてある程度の統一を図っていく。 ○教職員のICT活用スキルの向上を図る。 →ICT教育アシスタントと積極的に連携し、学習者用端末の効果的な使い方について研修を実施する。
取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○教職員の業務内容の見直しや、教育課程の適正実施等に向けたマネジメントを推進する。 →校務分掌の内容、分担の見直しを図る。 →学期末の業務の一部を新学期初めに分散させるなど、年間行事予定を工夫する。 →すべての教職員が研修会に参加できる体制づくりを検討する。 ○タイムマネジメントを実践 →時間軸や行動計画など、目標設定して取り組むための「可視化」を今後も継続する。